

より多くのなかまを職場で迎えよう

2021年6月20日号
第215号

毎月2回5日・20日発行

発行所

東京都千代田区霞ヶ関2の1の3 国土交通労働組合
電話(03)3580-4244 F A X (03)3593-0359
URL : https://kokkoroso.or.jp/
発行者: 安藤 高弘
1部20円(組合員の購読料は組合費に含む)



2021年6月20日 国交労組 第215号(通巻1371号) 昭和37年12月3日 第三種郵便物認可

国交労組

課題山積、ぎびしい道でも「歩ずつ確実に前へ」

第2回拡大支部代表者会議

国土交通労組は5月23日、第2回拡大支部代表者会議をWeb会議にて開催し、本部・支部・地協あわせて80人が参加しました。討議では、春闘の中間的総括と夏季闘争へむけたとりくみの強化について確認するとともに、組織強化・拡大等について活発な議論が交わされました。

職場を見つめ

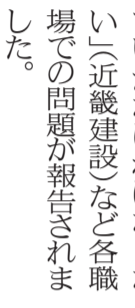
本部から、春闘の中間的総括と夏季闘争へむけたとりくみの強化について報告を行ったうえで、昨年からの一番大きな課題であるコロナ禍での職場の対応や職場で発生している問題、春闘にむけての各地協、支部における重点課題に対するとりくみ・方針を提案しました。



公務員職場の現状を報告する近畿港湾空港・平田委員長

報告された課題とあわせ、春闘・夏季闘争において、よりいっそうとりくみを強めていくことを意志統一しました。

いかにして動くか



西日本航空・佐藤支部長

組織強化・拡大は国土交通労組全体の最重要課題として、本部からの新たなとりくみ提案とともに、参加者からも多数の報告や決意表明がありました。



賃上げのとりくみの重要性を訴える西日本航空・佐藤支部長

「デジタル庁発足にともない、システム整備だけが引き上げられ、人員もとられる。国民への悪影響を分析して訴える必要がある」(本省)、「機関紙で各種問題について周知しているが、現場がピンと来ていない実態がある。また、コロナ禍において賃上げの声を上げることに罪悪感を感じてしまっている面がある。我々が委縮せず、賃上げを求めていくことが社会全体

が多数出ましたが、各支部、地協においても、手をこまねいているだけではいけないことは重々理解されており、なんらかの形で、組織強化・拡大にむけて具体的な動きをつくる姿勢が見えています。

地協や支部から、「オンラインオルグを実施したところ、10数人が参加し、話を聞いてくれた」(九州地協)、「組合事務室のスペースを一部活用し、カフェ化した。組合員が気軽に訪れて、相談したりする場になることができ



地協のとりくみを報告する九州地協・松藤議長

うごめきを実感

体制拡充署名について本部から、5月18日時点で過去最大の集約数となったことを報告しました。外部団体の賛同が増え、集約数が伸びたことが本部組織共闘部の調べでわかっています。しかし、支部においては、職場内での署名集約数が昨年に比べ減少しているところもあり、コロナ禍による署名活動に苦慮し、す



地元国会議員との懇談状況を発言する神戸海運・八澤支部長

べでの組合員からの署名が集約できていない支部があることがわかっていきます。本部は、署名提出期限に向け引き続き、議員要請を行っていくことを報告しました。

各地協、支部からは、「署名の意味、意義について、なぜやるのか理解されていないのでしっかりと説明していく必要がある」(東京気象)、「外部への依頼と回収が、コロナ禍によりとりくみが遅れてしまったことを反省している。次はしっかりと

とりくみたい。地方での議員との懇談において、保守系政党についても、紹介議員にはなってくれないが、話を聞いてくれる」(神戸海運)など、あらためて体制拡充署名

の意義と重要性を確認し合い、あわせて、前年度の反省をふまえつつ、署名提出期限に向けて、より一層、活発なとりくみを行つことを意志統一しました。

財政執行について、組織財政検討委員会から、答申について報告しました。本部からは、今後は、リモートの活用や、中央執行体制について検討を進めることで財政の健全化を目指していくこととしました。

検査庁法改正のゴタゴタで一旦廃案となつた定年延長法案が、ようやく成立した。内容的には、賃金水準の引き下げや年齢差別ともいえる役職定年制の導入、定員管理面からの新規採用への影響などの問題点や不安があり、諸手を挙げて喜べる訳ではないが、とりあえずは一歩前進とい

べきか▼23年度から段階的に65歳まで引き上げられていくが、一方で民間では高年齢者雇用安定法の改正により、この4月から70歳までの就業機会確保の努力義務が課されている。国公法改正の附帯決議でも、政府と人事院に65歳以降の就業のあり方について必要な検討を行うことが挙げられている。年金の支給との関係もあるが、何歳まで働かなければいけないのだろうか▼「人生100年時代」といわれるが、働くことばかりでなく、仕事を辞めてからの人生を楽しく送れるよう、自分の趣味や娯楽、家族や地域との共通の話題を持っているだろうか。自虐的に「趣味は仕事」というていないか▼かくいう自身を振り返ってみると、家と職場の往復だけになっている。50歳を目前に近づいて、そろそろ何かをはじめなければ。(YK)